校 長 室 よ り

長野県稲荷山養護学校　R5.12.22

特別支援学校技能検定大会「清掃部門」「食品加工部門」が開催されました

長野県の特別支援学校では、高等部生徒の「働く意欲」と「働く力」を高めるために特別支援学校技能検定に向けた学習に取り組んでいます。12 月 2 日には、長野養護学校すざか分教室にて「清掃部門」の検定が行われ、本校からも分教室の生徒を含め 15 名が参加しました。検定種目は、テーブル拭き・自在ぼうき・モップ・スクイジーの 4 種目。学習にご協力いただいた企業の方々が審査員となり、10 級から 1 級まで認定していただきます。一人ずつ手順に添って審査員の前で行うことは、とても緊張することですが、引き締まったいい顔でがんばっていました。終わった後の緊張感から解放された、充実した生徒の表情も素敵でした。テーブル拭きに挑戦した生徒の保護者の方が「技能検定の練習を家でもしているので、こたつの上が最近とてもきれいです」と話してくれました。日常生活につながっていることを嬉しく感じました。また、地域の企業とのつながりにもなり特別支援学校の生徒を広く知っていただく機会にもなっています。12 月 14 日には本校で「食品加工部門」が行われ、ポテトサラダを手順に添って作る活動に 4 名が参加しました。三学期には「喫茶サービス部門」も行われます。生徒たちの挑戦を応援したいと思います。

困っている人がいたら助ける・自分が困ったら助けを求める

更級分教室で人権教育講演会が開かれました。「多様性と助け合いの社会を知ろう」と題して、長野県ヘルプマークディレクターで県教育委員会人権教育講師の猪又さんと井出さんにお話を伺いました。猪又さんは先天性心疾患、井出さんは筋ジストロフィーと共に生きていらっしゃる方です。「いろいろな人と出会って、自分の良いところや苦手なところを知ること」「そんな自分を受け入れていくこと」「障がいのあるなしに関わらず、困っている人がいたら助ける、自分が困っていたら助けてもらう」と元気の出るお話を伺いました。分教室の生徒も話にうなずきながら集中して聞いていました。生徒の自己理解を深め、「自分っていいな」と思えたり、自分の苦手なところを自覚して周りに「助けて」と言えたりできるような指導をしていきたいと感じました。

二学期もありがとうございました

インフルエンザに新型コロナウイルスと感染症対策をしつつの二学期でしたが、校内で大きく広がらず学級閉鎖や学年閉鎖までいかなかったことは、保護者の皆様の感染予防対策へのご協力のおかげだと思います。本当にありがとうございました。

実り多き二学期が終わろうとしています。先日、千曲市少年補導委員会の皆様が、数年ぶりに本校に視察にいらっしゃいました。いただいた感想の中に「(本校を) 道路から見るだけでした。中を見学しお話を聞いて、初めてのことだらけでした。大変ありがたく勉強になりました。…これからの子どもたちを見る目が違ってきます」という感想がありました。小・中・高校との交流やスポーツ教室等、コロナ禍で閉ざされていた地域との交流も少しずつ元に戻ってきています。引き続き、子どもたちの生活が豊かになるよう三学期も職員一同取り組んでまいります。

寄付をいただきました

長野信用金庫稲荷山支店信用会 70 周年記念として、図書券 10 万円を寄付していただきました。子どもたちが大好きな絵本等、図書館の本の充実に使わせていただきます。ありがとうございました。